

第34期（令和6年）入学式式辞

今年は桜の開花前に寒い日が続き、開花宣言がことのほか遅くなりました。今、服部大池の桜は満開で皆さんの入学を祝ってくれているようです。そんな中で福山市北部市民大学の第34期の入学式が盛大に挙行されることを大変うれしく思います。

会場には、来賓として北部支所長 清水直樹様、北部地域振興課長 小林ひろのり様にお越しいただくとともに、講師の先生方に錦上花を添えていただいて華やかに開催できることを心から感謝申し上げます。

本日の入学式には、この市民大学が初めての学生のみなさんに出席して頂いています。皆さんには、市民大学の成り立ちや運営、生涯学習施設としての役割なども含めきちんと説明しながらも、心温まる式典にしたいと思います。

先ず、当市民大学のなりたちです。4年前に創立30周年を迎えました。当時生涯学習の機運が高まっており、福山市北部地域の住民の皆さんから「身近で気軽に学べる生涯学習の場を増やしてほしい」という熱い要望がだされました。そこで、町内会連合会長 老人クラブ連合会長 公民館長さんなどで当大学の運営委員会が組織され開校の運びとなりになりました。

直接運営の内容や方向性を決める運営委員会は、駅家町内の交流館長と事務局職員で構成されています。

めったにないチャンスですから、ここで皆さんに紹介させていただきます。

最初に 駅家交流館 谷口館長です。

宜山交流館 小川館長

服部交流館 佐藤館長

駅家東交流館 中井館長

駅家西交流館 山田館長

続いて、日々学生の皆さんのお世話をさせていただいている事務局の職員です。

井上副学長です。藤本事務局長です。松本事務局員です。鶏内事務局員です。

そして私は学長の吉川信政です。そして、学生会の後藤会長はじめ全役員が出席してくださっていて、駐車場の誘導や、式場の準備をしていただきました。

さて、地域の皆さんの熱意で開設された市民大学ですが、開学当時は、教室は十分にはないし、コピー機も借り物で都合よく使えません、駐車場は狭くてみんなの車が置けないなど、ないない尽くしでした。講師の先生方は本当に手弁当で教えてくださっていました。学生会からの中元と歳暮をお贈りする程度で教えていただくという、まるでボランティアでした。今でもその伝統は生きていて、先生方にはわずかな講師料で指導に当たっていただいています。開学して数年後に福山市北部市民センターが完成したことで、この建物の活用が私どもに特別に許可されたのです。駐車場が狭いとお叱りを受けることがあります。私が四年前に勤めていた老人大学の混み具合に比べると随分余裕があります。これ以上増やすことは無理ですから、大学が決めたルールを守り、駐車場の当番の指示に従ってください。

建物の設備もよくなっています。およそ一億5千万円をかけてエシ

ベーターの設置をしていただき、皆さんが使用できるようになりました。脚や腰が痛い人、三階まで重い学習道具を持ちあがっている人には大変ありがたい設備となりました。長年の懸案だったエレベーターを設置していただけいたことは、当市民大学のこれまでの取り組みを評価していただいたということとともに、これからも福山市北部の生涯学習施設として地域から必要とされる市民大学であり続けなければならない責任も生じているといえます。

市民大学は、住民の熱意、講師の先生方の厚意、行政の後押し、そして明日が選挙で忙しくて出席いただくことはできていませんが地元選出の市議会議員の先生方の力があつたからこそ今の北部市民大学ができたのです。

さて、「人生百年時代」と言われています現代における生涯学習施設としての市民大学の意義です。

アジアでは人生を4期に分けて捉える考える方があるようです。まずは、一人前になるために世間から学ぶ義務がある若き時期は、インドでは学生期というそうです。古く中国では青春と言われていいます。次を家住期と言うらしく、世の中に出て生計を立て子孫を残す、最も忙しい時期のことです。中国で朱夏と言います。次は林住期です。社会から身を引き仕事や家庭の細かいことから解放され、自由闊達に思索や活動ができる人生の黄金期です。中国では白秋と言います。その後を遊行期というらしく、中国では玄冬と言います。

青春 朱夏（学生期 家住期）が上り坂、白秋 玄冬（林住期 遊行期）が下り坂に作家の五木寛之さんは例えられました。充実した人生をおくるためには結構下り坂をどう生きるかが大切になります。

このヒントが市民大学の中にはたくさんあると思っています。

26ある科目の中から興味や関心のある物を選び、852人の学生の皆さんと一緒に学ぶのが市民大学です。講師の先生の素晴らしさに感心しながら、自らの知識や技術を高める楽しみを味わっていただきたい。そして、先生や一緒に学ぶ学生どうしのコミュニケーションを図っていただきたいと思います。若い気持ちの維持だけでなく、認知症の予防に効果があると言われていています。

私どもの市民大学の最高齢は今年98歳になられるかたです。地域の書道教室に通われていたが、家の近くにある市民大学の書道漢字の科目に入学されました。数年後に卒業されまた今年度は筆あそ美に入りなおされました。自作の詩や歌を書道の作品に仕上げるのを楽しみにしていられたこの人は、さらに高みを目指して再入学されました。学ぶのが好き、人と話すのが好きで、新聞に自作の詩の投稿もお好きです。時折市民大学の事務室に來られてゆっくり話して帰られることがあります。地域の歴史が得意で実に博学です。100年近く生きてこられた足跡も楽しく話してくれます。穏やかで話し相手を大切にされる等人に好かれる高齢者です。このように歳を重ねて人生100年時代を生き抜きたいものです。

もしかすると、超高齢者の地域貢献は、穏やかで愛され、人に頼った時は気持ちのいい「ありがとう」の言葉が言えることなのかなと思います。

再度話すようですが、学ぼうとする意欲は心の元気につながるでしょう。自分の好きなことや興味や関心を持つことにチャレンジすることは心の健康につながるに違いありません。そして同じ趣味を持った仲間を増やして日常生活を豊かにし感動ある生活を見つけて

いただきたいと思います。多くの感動や豊かなコミュニケーションはきっと人生に潤いを与えてくれます。このことがご自身の健康と地域の元気につながるに違いありません。

「楽しい学び つながる喜び 伝える感謝」のスローガンのもと学生の皆さんと一緒に大学づくりをしましょう。北部市民大学の活性化と皆さんの健康と発展を祈って式辞とします。

本日は 入学 誠におめでとうございます。

2024年（令和6年）4月6日

福山市北部市民大学

学長 吉川信政